

＜今日の説教のポイント コリントの信徒への手紙Ⅰ 4章6～13節＞

①(6節) パウロとアポロとペトロに争いは無い！ なぜか？

6節は、「コリントで起こっている分派争いはおかしい。なぜなら、パウロとアポロとペトロの間に争いは無いから。三人の間に誰かを持ち上げ誰かをないがしろにしたりすることは無いから」、とまとめられます。「信仰者になったのに、なぜそういうことが起こるのか」とパウロは問いかけ、7,8節で2つのことを指摘します。

②(7節) すべて神様からいただいたもの。誇るなら主を誇れ！

「全て神様から与えられたものだ」、パウロはそう言います。ヨブ記にこうあります。「私は裸で母の胎を出た。裸でそこに帰ろう。主は与え、主は奪う。主の御名はほめたたえられよ」(1章21節)。私たちが「自分のものだ」と誇れるものはないことを教えてくれる大事な聖句です。パウロもまた繰り返し、「誇る者は主を誇れ」(1:31、Ⅱコリ10:17。エレミヤ書9:22-23)、と語っています。

③(8節) 自分が富み、満足し、誇れることがゴールではない！

面白い言い方です。高ぶった顔をし、「既に満足し、大金持ちになって」(8)いたら、もう王様なのではないでしょうか？ パウロは「違う」と言います。聖書の信仰は自分が満たされることがゴールではないからです。そのためには、キリストの十字架の御苦しみの意味をどれだけ深く理解し、どれだけ大きな恵みと捉えられているかが問われてきます。それが次の最後の部分と関係しています。

④(9～13節) なぜこんな苦しみをパウロは背負って生きるのか？

パウロはここでなぜこんなに見せ物となり、苦しみ、耐え忍ばなければならないことを語らなければならなかったのでしょうか？ それはここと同じように語り、その理由をも語っている箇所を見ればわかります。Ⅱコリント5:11-6:13です。滅ぼされて当然の私たちを御子によって救って下さった神様。その救いを伝える使命が今度は私たちに御子に代わって託されているのです！ そのことが分かる時に全ては大きく変わります。パウロはこう言っています、「悲しんでいるようで、常に喜び、物乞いのように、多くの人を富ませ、無一物のように、すべてのものを所有しています」(6:10)。